

# うつのみやこども賞だより

平成19年度 第7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

## 《今月選ばれた本》

### 「ぐるぐる猿と歌う鳥」

加納朋子 / 作 (講談社)



## ～読んだ本の感想より～

初めはあまり面白くなかったけど、読んでいくうちにパックのことがいろいろわかってきて面白かった。

パックがいろいろな人に育てられているなんてびっくりしました。

美少女なのにすごくなまっているあやの設定や方言が面白かった。パックや社宅の意外な秘密がわかってよかった。

森が社宅に引越してからココちゃんやあやに会って、パックを家に泊めたりするところや勝に会ったりするところが面白かった。

屋根の上の猿と鳥の絵がみてみたい。親がいない時のいたずらが面白かった。

パックがとてもつらい思いをしながらみんなと一緒にたたかうところが感動した。

## 「サムデイ～いつか～」

岡田なおこ / 作 (岩崎書店)

障がい者のことがよくわかって、内容もよかった。

障がい者がどんな気持ちで日常生活をおくっているのかがわかりました。くるみさんが明るい希望を教えてくれる本です。

障がい者の本はあまり読んだことがなかったのですが面白かったしよかったです。

私も自分の応援歌をつくろうかな、と思いました。

体に障がいがあるくるみさんが一生懸命生きようとするのがすごかった。

ヨサクとまりえのほのぼのした会話も面白かった。

## 「緑の模様画」

高楼方子 / 作 (福音館書店)

ひとつひとつの場面が頭の中で創造できました。表紙の絵もすてきでした。

いろいろな出来事が3人をおそって、ハラハラドキドキしたりびっくりしたり読みごたえのある本でした。

女の子3人の友情がとてもかたく、3人の秘密の場所までつくってしまっすぎてしまった。

3人が一緒の時間におじいさんが現れたのがびっくりしたし、三つ葉がシャムロックという名前なのを初めてした。

時を超えた冒険にハラハラしました。

## 「幸子の庭」

本多明 / 作 (小峰書店)

大ばあちゃんの心残りが気になってどんどん読みました。

不登校の幸子の庭を舞台に、幸子の心や庭が新しく生まれ変わっていくところが感動しました。

ほとんどのお話は東京とかなのに、栃木がでてきて身近に感じられていいなと思った。

見事に剪定された庭で私も遊んでみたいな、と思いました。

最初は学校へ行けない幸子ちゃんがかわいそうだと思いましたが、学校に行きたいと思えるようになってよかったと思いました。